

# 「太平山麓九条の会」だより

事務局：須黒法律会計事務所 〒328-0027 栃木市今泉町 2-4-18 FAX0282-22-3757  
電話連絡先 0282-22-7079(増田)  
Eメール [ohirasanroku9jo@yahoo.co.jp](mailto:ohirasanroku9jo@yahoo.co.jp) HP：太平山麓九条の会で検索



199号  
2024年1月26日発行



栃木市皆川城址からの日の出  
萩野清さん撮影

## 知る、想う、忘れない

鈴木 解子

2024年正月、甥の心づくしのデパートからのおせち料理と到来物の銘酒地酒で新年を祝い、ほろ酔い気分で栃木の街を歩いた。「おめでとうございます」、知り合いと声を掛け合い、穏やかな新年の幕開けだった・・・。

自宅に戻ってつかの間、スマホからのけたたましいアラーム音。能登半島地震は石川県を中心に甚大な被害をもたらし、未だ（1月23日現在）その被害の全貌はつかめていないという。

阪神淡路大震災は1月17日、東日本大震災は3月11日、寒さ厳しい被災地の記憶が蘇る中、テレビの映像で知る能登地方の雪の中の被災状況に胸が押しつぶされる。今はただ亡くなった方々へ哀悼の意をささげ、被災地へのお見舞いの思いと僅かばかりの義援金を送るばかり。しかし私たちは寒さの中の被災者を想い続ける。

ロシアによるウクライナ侵攻、どれほどの子どもが親を奪われ、家族を奪われた人々の涙はどれ程に降り積もっていることだろう、想うばかりだが私たちは想うことを止めない！！

イスラエル・パレスチナ戦争は3か月を超えた。赤旗紙面に「ジェノサイド」という文字を見たとき、心が凍り付いた。南アフリカが国際司法裁判所にイスラエルを「ジェノサイド」提訴した。私たちはホロコーストを忘れない、ジェノサイドを忘れない。

かの地の血まみれの人々の顔が映し出されるニュース映像に対して、戦争放棄を謳う憲法を持つ日本の輝かしさを想う、この安心の中に人は暮らすべきだ。それなのに・・・日本が敵基地攻撃能力を持てる国になるとは！！

何という新年だろう、沖縄の県民の心を無視した辺野古・大浦湾の、国の代執行による工事着工。その強引な力を前に、しかし私たちは想い続ける、沖縄の歴史と痛みと心を。

知る、想い続ける、忘れない、新年の決意だ。



くららフェスタは、栃木市をよりよく暮らしたいと活動している団体などが一緒になって開催するイベントです。

3月10日(日) 11:00~15:30  
栃木市市民交流センター

太平山麓九条の会も参加します・・・

- 幻燈
- ゲーム(ダーツで遊ぼう)
- 「絵本」読み聞かせ
- 9条カルタ展示ほか・・・



幻燈「野ばら」

19日行動

# 新春のスタンディング

とちぎコープ店前



スタンディング

2月 9日 (金) 栃木市役所前

両日とも

2月19日 (月) ケーズデンキ大平店前

午後3時～

## 新年に寄せる思い

### 2024 オッペケペー節で

自由民権運動が終焉となった 1890 年代に川上音二郎が広めた政治批判の流行歌オッペケペー節。オッペケペ、オッペケペッポーペッポーポーと批判の後に続け語感を整える。

今年はダメ出しの「オッペケペー」でいこうと秘かに決めた。

- 敵基地攻撃だ、戦争放棄を放棄する。  
(オッペケペ、オッペケペッポーペッポーポー)
- 武器輸出解禁だ、死の商人復活す。  
(オッペケペ、オッペケペッポーペッポーポー)
- 安保法合憲と、憲法無視の裁判所。  
(オッペケペ、オッペケペッポーペッポーポー)
- ミサイル銃剣より、鶴嘴スコップ自衛隊。  
(オッペケペ、オッペケペッポーペッポーポー)
- 尊厳窮状正すのは、非戦の九条だべさ。  
(オッペケペ、オッペケペッポーペッポーポー)

元井 茂(記)

新年を迎えた早々に、想像を超えた自然災害と航空機事故が相次いで起こり、報道を見るのが怖くなる出来事でした。

日々、ウクライナやガザのリアルな戦争が映像で流れて幼い子ども達の泣き声や市民の訴え、亡くなった人の無言のメッセージが聞こえます。チャンネルを変えても「別世界」のバラエティ、グルメ番組に違和感を覚えます。

太平山麓九条の会は、月二回のスタンディングで、それぞれの思いの訴えをプラカードにして掲げています。戦争は繰り返され、難民は命も生活も奪われています。現実には、憲法九条が本場の意味で「世界の宝」になっていないと痛感します。ですが、今後も「世界の宝」を掲げてスタンディングに立ちたいと思います。

荻野美津子 (記)

## 「言葉の力」

この頃政治の世界では、言葉が軽く扱われているように思えて仕方がない。国会中継を見ると、質問されていることとは全く関係ないことを答えている政治家の姿を散見する。追及をかわす手段なら、あまりにも国民を馬鹿にしている。岸田首相も「平和国家」と言いながら平気で軍拡を進めるし、「丁寧に説明する」と言いながら、いろいろな疑問にもほとんど答えない。言葉をつかえるのは人間にとって最大の武器です。言葉をもっと大切にして、紛争も武力でなく言葉で解決すべきだと思います。

(板橋千代子 記)